

北海道浮魚ニュース

令和 8 (2026) 年度 11 号

2026 年 9 月 1 日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎道東太平洋イカ類南下期資源調査結果

漁獲調査でスルメイカは漁獲されたが小型で分布密度は低かった

調査期間：2026 年 8 月 19～25 日

調査海域：道東太平洋沿岸

調査船：北辰丸 (255 トン、イカ釣機 5 台装備)

調査方法：イカ釣機による 1 晩 2 地点の夜間釣獲調査、CTD による海洋観測

1. 水温環境

図 1 に 2026 年及び 2025 年の調査海域における水温と漁獲調査結果を示しました。

2026 年の調査点 10 点の表面水温は 18.1～23.2℃ (2025 年 10 調査点 18.4～21.6℃)、50m 深の水温は 6.7～12.2℃ (2025 年 10 調査点 3.9～13.2℃) の範囲にありました。全体として、表面水温は 2025 年の同じ調査点より 6 地点で高く 4 地点で低く、50m 深の水温は、6 地点で高く、1 地点で同じ、3 地点で低い結果でした。2026 年の 50m 深の水温は St7 と 9 で 7℃前後の他は 10℃前後から 12℃台で、海域内で温度差が少ない結果となりました。

なお、道総研水産研究本部では北海道周辺海域で 2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いた定期海洋観測を行い、水温及び流向流速について海況速報を発信しています。以下の URL で公開していますので、そちらも参照下さい。

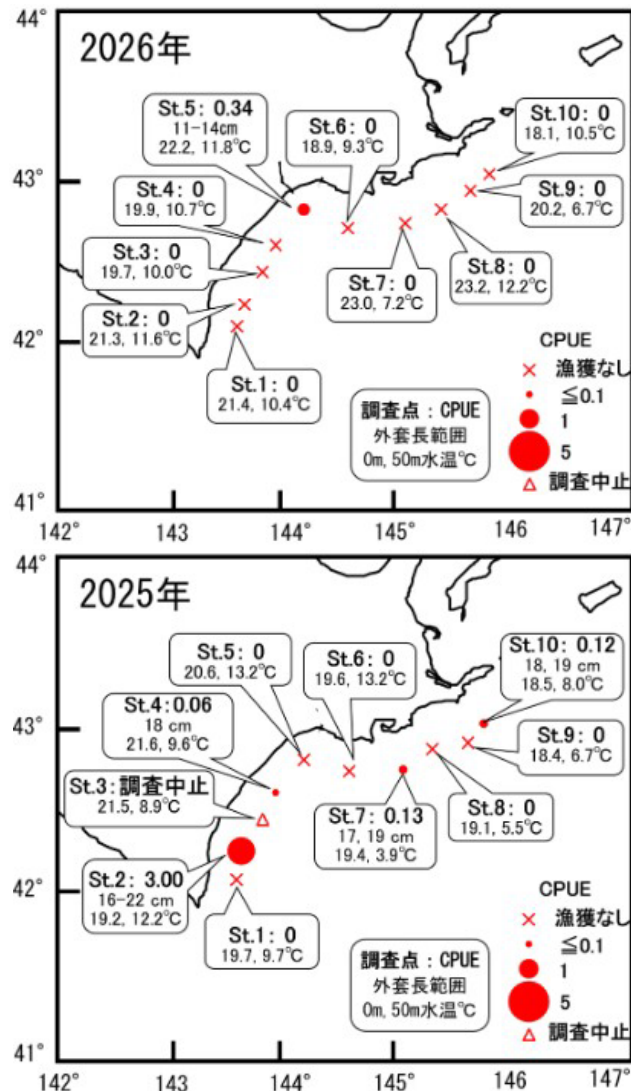


図1 2026年（上）と2025年（下）の漁獲調査結果と水温。

●は漁獲調査点を示し大きさはCPUE(イカ釣機1台1時間当たりの漁獲個体数)を表す。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou.html>

2. 分布密度

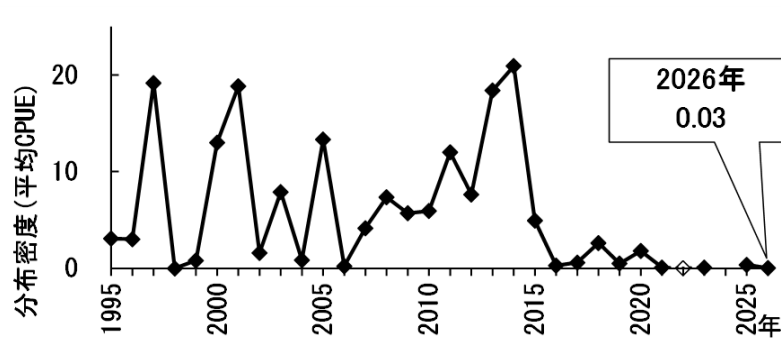


図2 8月道東太平洋調査におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化。
2022年は調査船故障による調査打ち切りのため参考値

漁獲調査を実施した10調査点のうちSt5で6個体のスルメイカの漁獲がみられました(図1)。このほか漁獲がなかった調査点のうちSt6で1個体漁獲中の脱落がありました。分布密度の指標となるCPUE(イカ釣機1台1時間あたり漁獲個体数)はSt5単独では0.34、海域全体では0.03と、2025年で最もCPUEの高かったSt2(CPUE:3.00)や、各調査点のCPUEの平均(0.37)と比べ、低い値となりました(図2)。以上の結果から、今回の調査ではこの海域へのスルメイカの来遊は確認できたものの、来遊水準は引き続き2016年以降の低い状態にあったと考えられます。

3. スルメイカの大きさ

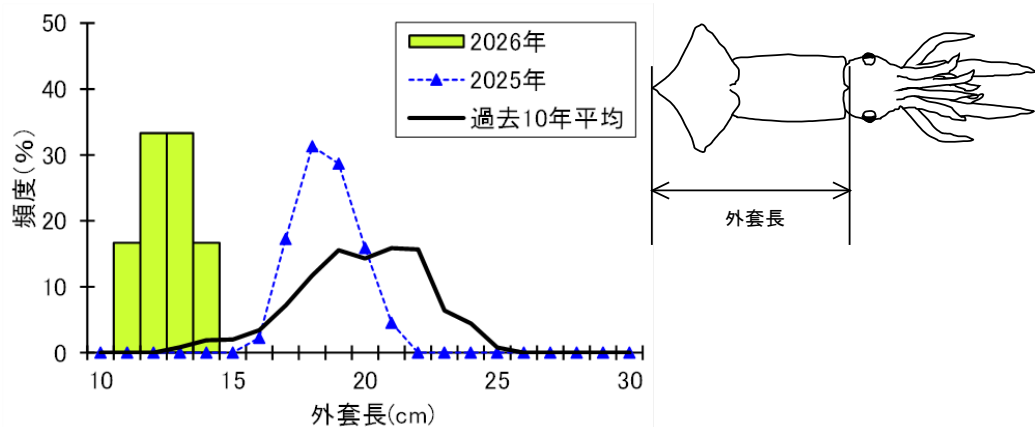


図3 8月道東太平洋調査におけるスルメイカの外套長組成。「過去10年平均」
は2016～2025年の平均値。ただし2024年及び2022年は漁獲なし

全漁獲調査点のスルメイカの外套長(胴長)は11～14cm(2025年16～22cm)の範囲にありました(図1、図3)。2025年も過去10年に比べて小型でしたが、2026年はさらに小型でした。2001年以降の本調査でこのサイズが漁獲されたのは2003年以来ですが、当時はあくまで一部に小型が混じる程度で、最も多いサイズ(モード)は18cmでした。調査した全個体がこれほど小型に揃ったのは、2026年が初めてです(図3)。

4. アカイカ

St10で4個体(外套長20～22cm)のアカイカが漁獲されました。本調査では7年ぶりの漁獲となりました。